

守りたいをアクションに

赤米

野口健さんを講師に迎え、地域で環境を勉強して「こうと創設した「野口健環境学校」。今年も、清音小学校の子どもたちが、高梁川河川敷のごみの回収や講演から環境について学びました。

総社市環境観光大使でア
ルピニスト、さらにはエベ
レストや富士山で清掃活動
に取り組んでいる野口健さ
んを講師に迎え、11月8日、
野口健環境学校を清音地区



清音小学校体育館で行われた記念講演。参加者は、野口さんの幼少期の体験やエベレスト登頂の話に聞き入った

「現場を自分の目で見る
ことが大事。見ることは知
ること、知ることは背負う
ことになる。この体験が環
境を守るアクションの
きっかけになれば」と、
話す野口さん。清音小
学校の6年生約60人と
高梁川河川敷を清掃。
漂流ごみや不法投棄さ
れていたタイヤやヘル
メットなど、軽トラッ
ク2台分のごみを回収
しました。中塚里奈さ
ん(同小6年)は、「川

がこんなに汚いとは思って
いなかった。きれいにでき
てうれしい」と、感想を話
しました。
続いて子どもたちはアル
ピニストの顔をもつ野口さ
んといっしょに福山を登
山。1234階段ある登山道
に補修用木材チップをまき
ながら頂上まで登りました。
清音小学校体育館で行わ
れた講演会には、同小の
4・5年生も加わり、保護
者や地域住民ら約320人
が参加。野口さんは、エベ
レストの登頂を2度失敗
し、3度目の挑戦で成功し
た経験や思いを率直に話
し、「失敗することは財産。
挫折を繰り返しながらも自
分と向き合い、チャレンジ
していったほしい」と、熱
く訴えました。



環境観光大使の野口健さんといっしょに高梁川河川敷のごみを回収する清音小学校の児童



新本小学校の児童と手際よく赤米の稲刈りをする赤米大使の相川七瀬さん

総社の赤米を後世に

つなぎ守る

今年6月、総社赤米大使に就任した
相川七瀬さん。総社市に伝わる古代米
の赤米を後世に伝えていくため、新本
小学校の子どもたちと、赤米の稲刈り
を行いました。

総社赤米大使で歌手の相
川七瀬さんが11月9日、新
本の本庄国司神社の神田で
行われた赤米の稲刈りに参
加。新本小学校5年生10人
と新本赤米保存会のメンバ
ーらと、今年6月に植えた
稲の成長を喜びながら刈り
取り作業を行いました。

自ら鎌を手に稲刈りをし
た相川さんは「自分で田植
えしたものを自分で収穫す
るとありがたさが増しま
す。子どもたちにとっても
貴重な経験になる」と語り
ました。参加した同小学校
の下山華加さんは、「初め

て稲刈りをした。
相川さんといっし
よにできて楽しか
った」と笑顔で話
しました。

相川さんは、赤
米の保存・継承の
重要性に興味をも
ち、総社の新本の
ほか長崎県対馬と
鹿児島種子島で
も赤米を広め伝え
る大使として活躍していま
す。「大使として子どもた
ちに赤米の歴史や伝統を訴
え、伝えていきたい」と意
気込みを話しました。



稲刈りの後、拜殿で歓談。相川さんが自ら作詞した赤米応援ソング「ヒカリノミ」を「学校で毎日聴いています」と話す新本小学校の児童

今後、赤米を通じて、人
と人、親と子などの「つな
がり」をテーマとしたプロ
ジェクトを計画していきま
す。

絆